B—137 ラグランスリーブの振りについて.

名古屋市立女短大　○大橋陽子　住田八重子　田仲裕子

目的. 袖を側面からみたときの袖山線は、肩先点からの垂線に対して多少傾斜をつけてあるのが普通であるが、この傾斜が不適合で前に傾斜しすぎたり、後に傾斜して不必要なしわを作る例は良く目につく。この袖の振りの適合性は、ラグランスリーブのように袖山線に縫目をつけるデザインの場合には特に顕著である。また袖の構造上、ラグランスリーブはセットインスリーブに比べて振り分を自由に操作することは困難であり、設計にあたって振りの適合性が重要な意味を持つことになる。ここではラグランスリーブの袖山の傾斜角の意味とその適合性について検討した.

方法. 10種類の原型によるセットインスリーブおよび17種類のラグランスリーブ製図法から振り分の各平均値を求め、これを基に振り分の異なる5段階のラグランスリーブのブラウスを製作した。この試料を用いて袖のすわりの良さについて官能検査を行ない、上肢の形態と振りについて考察した.

結果. 適正振り角度および範囲、識別範囲を得ることができた。また個人差の強い体型については、上肢の下垂傾斜角に合わせて振り分を訂正する必要がある.